JIFAS NEWS
Japan International Food and Aquaculture Society
2006.03.24　No.0111
JIFAS
E-Mail：jifas@sage.ocn.ne.jp　URL：http://www.jifas.com
〒104-0032
東京都中央区八丁堀4-1-4
Tel:03-3537-8371 Fax:8373

★第6回国際アワビシンポジウム報告書

▲講演するアントニオモスケイラ氏

開催地：チリ
期　間：２００６．２．１９～２４
参加者：アントニオモスケイラ（Antonio Mozqueira）による会議出席報告（要旨）

私はJIFASの後援により、2006年２月下旬チリのプエルトバラスにおいて開催された「第６回国際アワビシンポジウム」に出席し、JIFASを代理して「プロジェクトAU」の進展状況に関する報告を行う喜びを得ました。

1989年にメキシコで初めて開催されて以降、このシンポジウムは平均３年に１回の頻度で、これまでにオーストラリア、米国、南アフリカ、中国で、そして、本年はチリで開催されました。このシンポジウムには研究者、経営者、学生、養殖家、および、飼料や機器製造メーカーといったあらゆる形態の支援業界が参集し、毎回１週間にわたりアワビ生態学、保護、資源管理、漁労、疾病、遺伝学、生物工学、養殖、先端技術、加工処理、市場販促、業界事情等のあらゆるテーマに関する論議を行う機会が提供されております。

本年は会議出席者が400人を超える盛況ぶりで、世界各国の代表達による80件の口頭報告と50件のポスターによるプレゼンテーションが行われました。今回のシンポジウムにこれだけの興味を喚起した重要な要素の一つはその開催地がチリであったことであります。

・アワビ養殖　－　チリ

有力な野生魚類漁業とサーモン養殖業界を維持し、チリは水産物輸出の世界的リーダーとなっております。過去10年間にわたり、チリはまた非原産種の日本アワビ（Hariotis discus hannai）およびカリフォルニアアワビ（H. rufescens）の養殖を基盤とする極めて重要なアワビ養殖部門を開発してきております。これらの両種は共に、人工飼料の使用を探究する若干の養殖場は存在するものの、大半は主要餌料としてケルプを使用し、海洋や陸上式養殖場におけるバレルやケージ養殖といった、相対的に労働集約（**次のページに続く**）